

コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の下地調整(改修)

2節 下地調整

7.2.1 施工一般

塗替えて、表 7.2.1 から表 7.2.7 までのRB種の場合の既存塗膜の除去範囲は、特記による。
特記がなければ、劣化部分は除去し、活膜部分は残す。

7.2.6 コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の下地調整

(2) 押出成形セメント板面及び8節[耐候性塗料塗り(DP)]におけるコンクリート面の下地調整は表 7.2.6 による。ただし、種別は、塗り工法に応じた節の規定による。

表 7.2.6 コンクリート面及び押出成形セメント板面の下地調整

工 程	種 別			塗 料 そ の 他			面の処理
	RA種	RB種	RC種	規格番号	規格名称	種 類	
1 既存塗膜の除去	○	—	—		—		ディスクサンダー、スクレーパー等により、全面除去する。
	—	○	—		—		ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化し脆弱な部分を除去し活膜は残す。
2 汚れ、付着物除去	○	○	○		—		素地を傷つけないようにワイヤーブラシ等により、除去する。
3 ひび割れ部の補修	○	○	—		—		4章[外壁改修工事]によるひび割れ部の補修は特記による。
4 下地調整塗り(注)1	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1C-2 又は CM-2	全面に塗りつけて平滑にする
	—	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1C-2 又は CM-2	既存塗膜の除去部分の不陸を調整する
				JIS K 5669	合成樹脂エマルションパテ	耐水形	
5 吸込み止め	○	○	—	JASS 18 M-201	反応形合成樹脂シーラー及び弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー	—	既存塗膜を除去した範囲に塗り付ける。
6 パテしごき	○	—	—	JASS 18 M-202	反応形合成樹脂パテ	2液形 エポキシ 樹脂パテ	全面をしごき取り、平滑にする
7 研磨紙刷り	○	—	—		研磨紙P120～220		乾燥後、全面を平らに研磨する
	—	—	○		研磨紙P240～320		

(注) 1. 押出成形セメント板面の場合は、工程4を省略する。

2. 8節[耐候性塗料塗り(DP)]におけるコンクリート面の場合は、工程4の建築用下地調整塗材の C-1、C-2又はCM-2 の使い分けは、4. 5. 5[既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上げ外壁等の下地調整] (ア)による。

3. 工程5のシーラー及び工程6のパテは、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定するものとする。

4. JASS 18 M-201 及び M-202 は、日本建築学会材料規格である。

5. 屋内で現場塗装する場合、工程5の吸込み止め及び工程6のパテしごきに使用する材料は、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定する水系塗料とする。

【4. 5. 5 既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上げ外壁等の下地調整】

既存のコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に仕上塗材塗りを行う場合の下地調整は次による。

(ア) コンクリート面の下地調整は、次による。

(a) 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。

(b) 下地面の清掃を行う。

(c) 下地調整塗材 C-2 を、1～2mm 程度全面に塗りつけて、平滑にする。ただし、スラブ下等の見上げ面、厚付け仕上塗材仕上げ等の場合は、省略する。

(d) 下地の不陸調整厚さが1mm 以下の場合は、(c)の下地調整塗材 C-2 に代えて、下地調整塗材C-1を平滑に塗付けることができる。

(e) 下地の不陸調整厚さが3mm を超えて 10mm 以下の場合は、(c)の下地調整塗材 C-2 に代えて、下地調整塗材 CM-2 を平滑に塗り付ける。